

『Mind Charging』

第 114 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 9 月 16 日

アントニオ猪木の名言



元々ありもしない「限界」にこだわると、己の力に疑問を持つようになり、
しくじったり、できなかつたとき、
「ああ、これが俺の限界だ、もうダメだ」とギブアップしてしまう。

限界はないとハッキリ言いきれるところは、さすが『元気があれば何でもできる』で有名なアントニオ猪木氏という印象です。しかし、この言葉からは『こんなにもエネルギーに見える人でも、実はギブアップしたくなる弱い自分と常に戦っているのかもしれない』と感じました。

人間の素晴らしい力(強さ)を感じさせられるようなエピソードをテレビ番組などで時々目にしますが、それと同じくらい人間は脆さがあると思います。誰にでも弱い部分はあると思いますので本当の意味で強い人間というのは、もしかしたら存在しないかもしれません。だとしたらどうすればいいのかを考えた時、この言葉のようにネガティブな方向に気持ちが向かないような努力が必要なのだと思います。これは、現実から目を背けることとは全く違うことだと思っていますし、もしもそうだとでもギブアップしてまで向き合う必要があることが目の前にある現実なら目を逸らしてもいいのではないのでしょうか。

そこで大切になってくるのが『目を逸らす＝逃げる』ではないということです。一旦離れてその現実との向き合い方や戦い方を考える時間を設ける必要があります。しっかりと考えて向き合っていけば困難もきっと乗り越えられます。そういう意味ではやはり人間には限界など存在しないのでしょうか。(編集委員：入試広報室 鈴木)

アントニオ猪木(アントニオいのき、英: Antonio Inoki, 1943 年 2 月 20 日 -)は、日本の元プロレスラー、実業家、政治家。本名:猪木 寛至(いのき かんじ)。神奈川県横浜市鶴見区出身。血液型 AB 型。新日本プロレス設立後のキャッチフレーズは「燃える闘魂」。日本プロレス所属時代のキャッチフレーズは「若獅子」。愛称は「アントン」。複数の結婚歴と離婚歴があり(4 回結婚している)、二番目の妻は女優の倍賞美津子である。倍賞との間に娘が一人いる。1991 年にイラクのシーア派聖地カルバラーにてイスラム教に改宗しており、ムスリム名は「モハメッド・フセイン・イノキ」である。ただし、ワシントン・ポストによると本人は仏教徒とも自認する。(Wikipedia 参照)